

平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について

教育委員会学校教育課

平成27年度の本市の結果は、以下のとおりです。本調査結果は、学力の特定の一部分であることを踏まえてご覧ください。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の実施学年・実施学校数・実施児童生徒数

学校種	実施学年	実施学校数			実施児童生徒数		
		本市	県(公立)	全国(公立)	本市	県(公立)	全国(公立)
小学校	6年生	78校	506校	20,005校	5,350人	14,692人	1,061,301人
中学校	3年生	39校	216校	9,691校	5,022人	14,931人	1,016,737人

(3) 調査の内容

- ア 教科に関する調査
国語A・B、算数・数学A・B、理科
(Aは「知識」、Bは「活用」に関する問題。理科はA・Bを一体的に出題。)
- イ 質問紙調査
生活習慣や学習環境等に関する調査

(4) 調査日

平成27年4月21日(火)

2 教科の区分(A「知識」とB「活用」)に関する調査結果

(平均正答率・・・児童生徒の正答数の平均を設問数で割った値の百分率)

(1) 小学校(調査対象：6年生)の平均正答率(%)

教科 区分	国語		算数		理科
	A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」	
本市	71.3	68.4	78.0	44.9	65.6
県	68.4	65.8	75.9	42.5	63.4
全国	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8

(2) 中学校(調査対象：3年生)の平均正答率(%)

教科 区分	国語		数学		理科
	A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」	
本市	75.3	65.9	64.2	42.0	53.7
県	73.3	64.1	61.7	39.4	51.9
全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

3 今後の調査結果の公表等について

(1) 本市

教科ごとに「市・県・全国の平均正答率」、「各教科の平均正答率(5段階)ごとの児童生徒数割合のグラフ」、「教科ごとの本市の課題と改善策」を市のホームページで公表する。

(2) 学校

平均正答率の数値は示さず、全国の平均正答率を100として、市・全国と自校の結果を比較するグラフと、学校の課題に対する改善策を公表する。小規模校で個人が特定される場合は、グラフに代わる公表を行うこともできる。

(3) 今後の活用

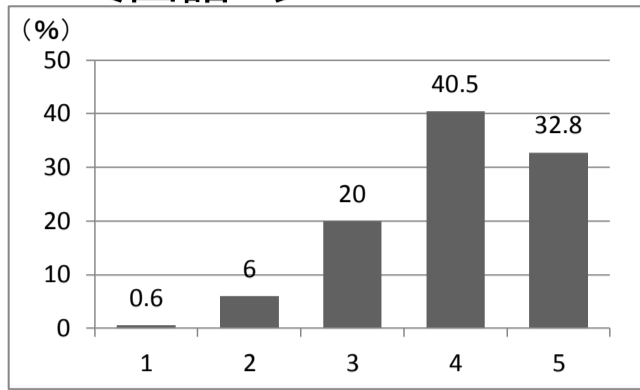
- ・ 市教委は、今回の調査結果や過去の結果との比較から明らかになったことについて対応策等を示し、各学校の指導方法の改善に生かすよう指導する。
- ・ 各学校は、自校の調査結果を分析し、過去との比較の上、課題の対応策を基に、指導方法の改善に生かす。

【別紙様式】

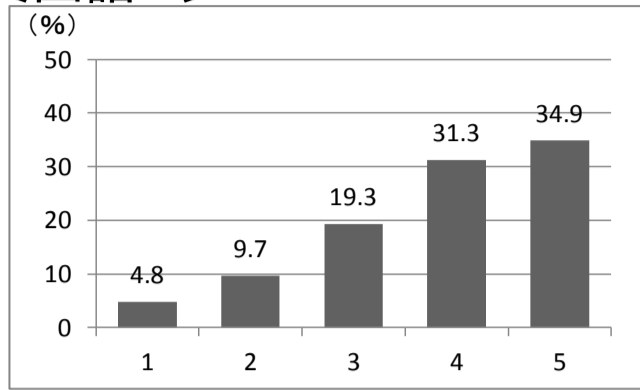
平成27年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

鹿児島市教育委員会

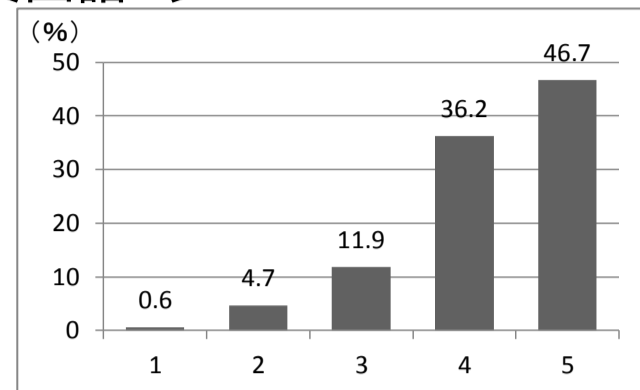
【小学校】
〔国語A〕



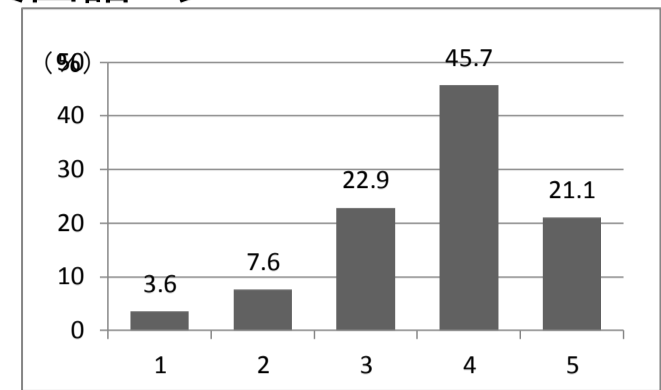
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



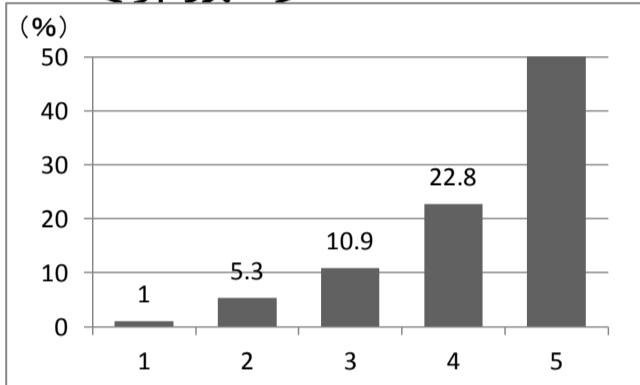
〈課題〉

- ・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ傾向が見られるが、上位層を更に伸ばす必要がある。
- ・文中における主語と述語、修飾の関係について、全学年を通して理解の定着を図る必要がある。
- ・文章と図やグラフなどを関係付けて、自分の考えを書くことに課題がある。

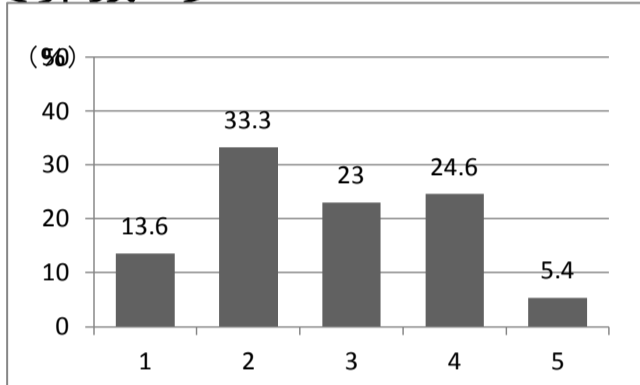
〈課題〉

- ・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ傾向が見られるが、上位層を更に伸ばす必要がある。
- ・伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考えることに課題がある。
- ・複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くことについては改善されているが、依然として課題がある。

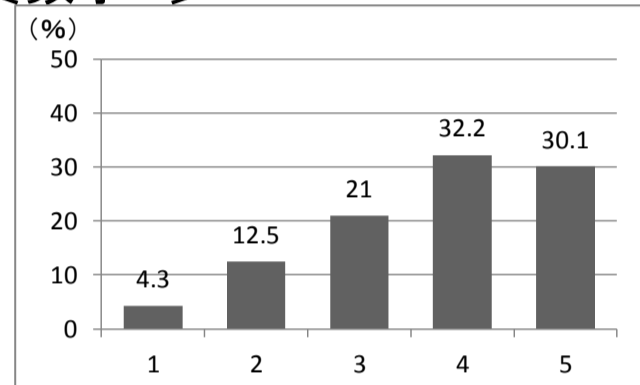
〔算数A〕



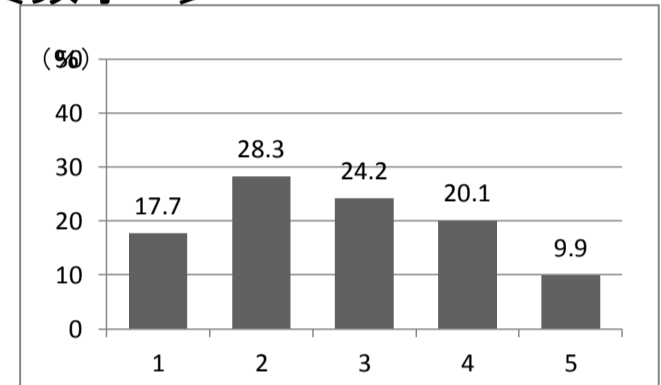
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



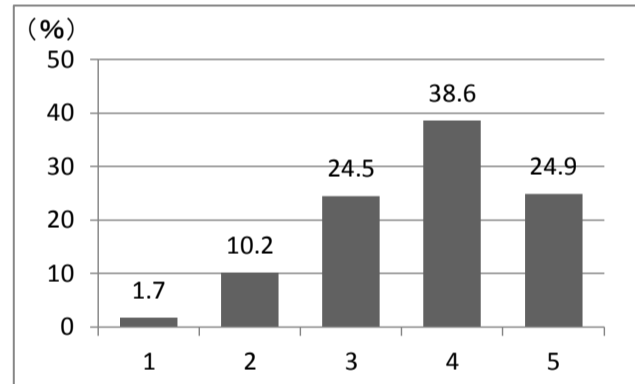
〈課題〉

- ・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ傾向が見られるが、B問題において、下位層を引き上げる必要がある。
- ・計算処理について、図や半具体物の操作と関連付けて理解することに課題がある。
- ・図形の作図方法について、その約束や性質等を活用して、判断したり、説明したりすることに課題がある。

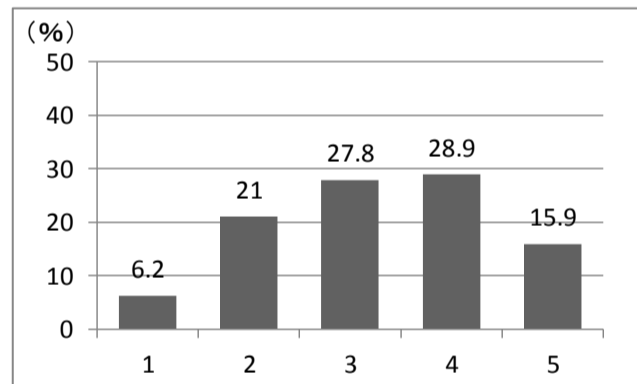
〈課題〉

- ・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ傾向に見られるが、B問題において、下位層を引き上げる必要がある。
- ・垂線の作図や確率など、これまでも課題であった内容について改善が見られないため、指導を徹底する必要がある。
- ・図やグラフから分かることを読み取り、論理的に考え、説明することに課題がある。

〔理科〕



〔理科〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ傾向が見られるが、上位層がやや多い。
- ・条件を制御して実験を企画したり、科学的な概念を適用して、身近な事象に関する問題を考えたりすることに課題がある。
- ・観察記録や実験結果から必要な情報を読み取り、考察することに課題がある。

〈課題〉

- ・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ傾向が見られるが、下位層を引き上げる必要がある。
- ・調べる条件を変えて対照実験を計画することに課題がある。
- ・実験結果を分析、解釈し規則性を見出したり、その要因について考察したりすることに課題がある。

【改善策】

○ 今後、各学校において、以下の学力向上策が実施できるようにする。

- 〔小学校〕(国語科) ・主語・述語等の文法事項の習得に必要な時間の設定や、5・6年での反復学習の機会の位置付け
・具体的な事例を挙げて説明する文章を書く学習活動の工夫
- (算数科) ・式や計算方法の意味を、数直線などの図や表と関連付けて説明できるようにする指導の徹底
・日常生活と関連のある学習課題の設定や解決方法を比較したり、分析したりする話し合い活動の充実
- (理科) ・学習内容と関連の深い素材を基にした教材開発や体験的な活動を取り入れた科学的な探究活動の工夫
・観察・実験の結果を分析・解釈し、根拠と理由を明確にして考えを説明する活動の充実
- 〔中学校〕(国語科) ・複数の本や資料から重要語句やポイントを取り出し、それに関する自分の考えを具体的に書かせる活動の工夫
・伝えたい事柄が相手に明確に伝わるような書き方や話し合い活動の工夫
- (数学科) ・改善されない問題の誤答傾向を捉え、原理・法則についての理解を深める発問や話し合い活動等の工夫
・結論を導くために、図やグラフのどの部分に着目し分析すればよいか考えさせ、事象を数理的に捉える見方や考え方を育てる指導の充実
- (理科) ・観察・実験を企画し予想をする際に、複数の条件から対照となる条件に気付かせるなどの科学的に探究する指導の工夫
・予想や考察などを自分の言葉でノートに書いてから話し合いを行うなど、生徒一人一人がしっかりと考える活動の充実
- 〔全体〕
- ・学習意欲を高めるための問題解決的な「めあて」の設定
 - ・話し合い活動を取り入れ、自分の考えをノートに書かせ、見え消しや付け加えなどで修正させる活動等による子供の思考・判断・表現力の育成
 - ・鹿児島学習定着度調査や全国学力・学習状況調査の中で定着の低い問題及び「かごしま学力向上Webシステム」の問題等を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や活用する力の育成
 - ・家庭学習の手引きを基にした宅習の内容や方法の指導及び児童生徒が調べたり文章を書いたりする宿題の追加
 - ・家庭と連携した他者の話を聞く態度の育成

平成27年度 全国学力・学習状況調査（国語）
～調査結果から見える本市国語科教育の課題について～

学校教育課

1 国語科の調査結果

小学校においては、A・B問題ともに、全国平均を上回った。
中学校においては、A問題は、全国平均をやや下回り、B問題は、全国平均とほぼ同じであった。また「読むこと」は小学校がA・B問題ともに改善したが、中学校では全国正答率を三年連続で下回った。
平成二十六年と比較すると、小学校のB問題以外は、全国比が下がった。

2 本市国語科の課題

・ 文の中における主語を捉えたり、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使ったりすることに課題がある。
・ 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら書いたり、複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書いたりすることに課題がある。

	【全国との比較】
小学校	<ul style="list-style-type: none"> 文の中における主語を捉える。 A問題2一【▲9.3】 学年別配当表に示されている漢字（承知）を正しく読む。 A問題1一3【▲1.6】 ◇H20に同一問題出題 具体的な事例を説明する文章を書く。 A問題4【▲1.2】 <p>※ 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く。 B問題1三【+6.4(記述)】 無答率2.1%【+1.9】</p>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味（口火を切る）を理解し、文脈の中で適切に使う。 A問題9三イ【▲6.3】 ◇H20に同一問題出題 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く。 A問題7一【▲3.4】 無答率4.7%【▲0.5】 表現の技法について理解する。 A問題3一【▲2.6】 <p>※ 複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く。 B問題2三【+0.2(記述)】 無答率2.6%【+1.1】</p>

項	小学校		中学校	
	A	B	A	B
本市正答率	71.3	58.3	75.3	65.9
全国正答率	70.0	55.5	75.8	65.8
全国比(H26)	+1.3 (+1.8)	+3.0 (+2.8)	-0.5 (+0.7)	+0.1 (+1.1)

3 課題を示す特徴的な問題

【小学校A問題2一】
《文の中における主語を捉える問題》

2 次の一と二の問いに答えましょう。

一 1と2の文の主語として適切なものを、アからエまでのの中からそれぞれ一つ選んで、その記号を書きましょう。

1 降っていた雨が、急にやんだ。

2 ぼくの妹の誕生日は、五月二日だ。

【中学校A問題7一】
《伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考える問題》

7 次の美化委員会に対し寄せられた「要望」と、美化委員会が掲示する予定の「回答案A」「回答案B」をそれぞれ読んで、あとの問いに答えなさい。

【要望】
美化委員会へ
美化委員会に要望があります。
現在、美化委員会では毎朝花壇に水やりを行っています。
それを、放課後も行ってはどうでしょうか。これからの時期は暑くなり、朝の水やりだけでは足りないと思います。
ぜひ、検討してください。

【回答案A】
委員会で検討したところ、「指摘はもっともだが」、「放課後は、委員も部活動に出るのでできない」など、様々な意見が出されました。その結果、「委員だけで放課後に水やりを行うことは難しい」ということになりました。
そこで、生徒の皆さんからもボランティアを募集して、放課後の水やりを行っていただきます。
美化委員長 小林 太郎

【回答案B】
委員会で検討した結果、「委員だけで放課後に水やりを行うことは難しい」ということになりました。そこで、生徒の皆さんからもボランティアを募集して、放課後の水やりを行っていただきます。
話し合いの中では、「指摘はもっともだが」という意見もあった一方で、「放課後は、委員も部活動に出るのでできない」という意見が出され、このような結論になりました。
美化委員長 小林 太郎



一 【回答案A】と【回答案B】の書き方の違いについて説明したものを、次の1から4までの中から1選んで、その記号を書きなさい。

1 【回答案A】では感想を述べてから事実を説明し、【回答案B】では事実を説明してから感想を述べている。

2 【回答案A】では事実を説明してから感想を述べ、【回答案B】では感想を述べてから事実を説明している。

3 【回答案A】では検討の経過を説明してから結論を述べ、【回答案B】では結論を述べてから検討の経過を説明している。

4 【回答案A】では結論を述べてから検討の経過を説明し、【回答案B】では検討の経過を説明してから結論を述べている。

【本市正答率】67.2% (全国比▲3.4)

伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考えることに課題
要望に対する回答の書き方について、「検討の経過」を述べている部分を、「結論」だと誤って捉えた生徒が16.6%いた。
論説文などを読むときに、それぞれの文章が「問題提起」「事実」「説明」「仮定」「推論」「例示」のどれにあてはまるのかを意識させながら読み進める必要がある。

【本市正答率】43.8% (全国比▲9.3)

文の中の主語を捉えることに課題
「ぼくの妹の誕生日は五月二日だ」の主語を、「ぼくの」や「妹の」と間違えた児童が38.6%いる。人以外が主語になる場合にも、人を選んでいる。
文の中の主語と述語の関係や、修飾の関係について、類似の問題を繰り返し与えながら、定着を図る必要がある。

【中学校B問題2】
《複数の資料から必要な情報を読み取る問題》

② 次の資料は、「A ウェブページの文章」、「B 日本の人口推移を表したグラフ」、「C 雑誌の記事の一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

Discover Tomorrow
～未来(あした)をつかもう～

世界のスポーツ界が急速な変化や様々なチャレンジに直面する中で、東京は「素晴らしい大会を確実に開催し、オリンピックとパラリンピックの価値を次世代に受け継いでいく」ことを訴え、招致の成功を実現することができました。そのメッセージは、世界に約束できる3つの強みによって支えられています。

まず、安心、安全、確実な大会開催。世界有数のインフラやセキュリティを誇る東京の都市力に加え、大会は政府のバックアップを受けて開催されます。数々の国際競技大会開催経験に基づく日本の運営能力も、円滑な大会運営に貢献します。

次に、オリンピック・パラリンピックへの日本の情熱。大都市東京の中心で、多くのファンによって選手に大歓声が送られる大会は、かつて類を見なかったような素晴らしい祝祭となって、世界中の人々を熱狂に駆り立てます。

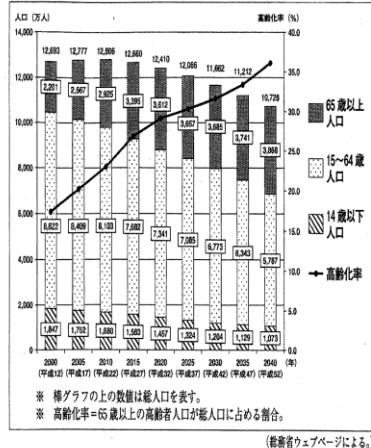
3つめに、イノベーション。最先端都市東京の中心で、日本のテクノロジーや想像力を結集し革新に満ちた大会を開催することで、オリンピック・パラリンピックのインスピレーションを世界中の若者たちへ届けることができます。

また、招致が決定したアエノスアイレスのIOC総会では、日本のプレゼンターが、東日本大震災以降、日本人があらためて気づいたスポーツの真の力についても訴えました。

震災復興に際して、多くのアスリートたちが被災地に足を運んでいます。活動の中で、子供たちがスポーツを通じて少しずつ笑顔になっていく様子を目の当たりにし、私たちはスポーツやアスリートが社会において果たせる役割についてあらためて気づくことができました。2020年の大会開催に向けて、今度はそのスポーツの力を世界に伝えて、社会におけるスポーツの価値向上に貢献する、それが日本の決意です。

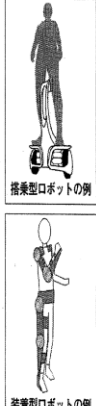
(公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ウェブサイトによる。)

(注1) インフラ=インフラストラクチャーの略。道路、鉄道、学校、病院など、社会生活の基盤となる構造物の総称。
(注2) イノベーション=技術革新。これまでは異なっていた新しい開発。
(注3) インスピレーション=ここでは、オリンピックやパラリンピックがもたらす刺激のこと。
(注4) IOC総会=国際オリンピック委員会の会議。



生活を支援するロボットの開発

世界では、様々なロボットの開発が進められている。例えば、人の移動を支援する搭乗型ロボット。このロボットの中には、10年以上前から実用化されているものもあり、空港でのパトロールなどに使われている。現在、日本では「生活支援ロボット」の開発が行われている。誰でも簡単に乗り降りでき、日常生活での移動を助ける搭乗型ロボットの開発に加え、装着型ロボットの開発も進んでいる。これは、装着した人の意思を読み取って身体の動きをサポートするロボットである。身体機能の回復のためのリハビリテーションなどを一部導入されているが、今後は、足腰の弱った人の歩行支援、重い荷物の持ち上げ、レスキュー活動など、幅広い場面での活用が期待されている。このように、人間の生活を支援するロボットの開発が、日夜進められているのだ。



【本市正答率】23.2%(全国比10.2%)
複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くことに課題

A…ウェブページの文章
B…日本の人口推移を表したグラフ(国語Aでも同一グラフが出題)
C…雑誌の記事の一部
…種類の資料を基に適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く力が求められているが、「社会にどのような関わりを持っていきたいか」を具体的に書く部分の意見や考えを書けるようになる指導を行う必要がある。

4 児童・生徒質問紙との関連

小・中学校の、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたり」する活動や、「うまく伝わるように話の組み立てを工夫」する活動について、全国との差が前年度より広がる傾向にあり、早急な改善が必要である。(下図参照)

5 改善のポイント・実践例

【小中共通】
児童生徒の学力の実態把握や過去の分析を行い、定着の不十分な問題等に意図的に取り組ませる授業の実践。
実生活の様々な場面を踏まえた言語活動を、単元を貫く形で位置付ける授業の実践。
課題を設定し、解決に向けて話し合い、表現する学習活動の実践。

【小学校】

文の中における主語と述語、修飾の関係について、理解の定着を図る。例えば、「走った」「流れる」など、述語の部分のみを提示し、主語となる言葉を考えさせ、主語の中には、人物以外の事物などにも該当することを理解させる。
インタビューで聞き取った内容を整理して、感想、意見などを区別し、伝えたい内容が伝わるように書く。書いた文章はお互いに読み合っており、観点に基づいて相互評価する。

【中学校】

表現の技法の名称とその用例をカードにまとめて分類したり、その効果について気付いたことを書き加えたりするなどの学習活動を行う。
複数の本や資料から重要語句やポイントを捉えて必要な情報を取り出し、それに関する自分の考えを、字数や時間などを意識しながら書く学習の機会を設定する。

質問事項	小学校		中学校	
	本市	全国比	本市	全国比
(53)目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。	63.1 (61.3)	▲2.1 (▲0.1)	56.1 (53.8)	▲3.1 (▲2.3)
(54)意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。	56.8 (55.8)	▲4.4 (▲3.1)	49.6 (44.6)	▲4.4 (▲4.5)

平成27年度 全国学力・学習状況調査（算数・数学）

～調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について～

1 算数・数学科の調査結果

小学校では、A問題は全国平均正答率を上回ったが、B問題がわずかに下回った。

中学校では、A問題はわずかに下回り、B問題は上回った。

全国平均率との差については、平成26年度と比較すると、算数のA問題以外は小さくなっている。

項	算数		数学	
	A	B	A	B
本市正答率	78.0	44.9	64.2	42.0
全国正答率	75.2	45.0	64.4	41.6
全国比 (H26)	+2.8 (+4.0)	-0.1 (-0.2)	-0.2 (-1.1)	+0.4 (-0.4)

2 本市算数・数学科の課題

- 基礎的・基本的な知識及び技能について、数量や図形に関わる意味や概念、原理や法則に対する理解に課題がある。
- 図・式・表・グラフ等を観察して数量の関係を捉え、関連付けて考察すること、図形等の性質を活用して、説明したり、証明したりすることに課題がある。

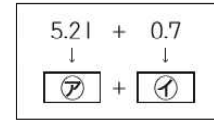
【全国との比較】	
小学校 算数	<ul style="list-style-type: none"> 単位となる小数の幾つ分で、小数の大きさを表すことができる。 A¹(2)【▲2.9】 平行四辺形の作図の方法に用いられている図形の約束や性質を理解している。 B¹(2)【▲4.6】 切り上げた場合の見積りの結果を基に、目標に達しているかについて判断できる。 B⁴(2)【▲2.7】 ※ 二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めることができる。 A⁵(2)【+9.8】
中学校 数学	<ul style="list-style-type: none"> 作図の根拠として用いられている平行四辺形になるための条件を理解している。 A⁷(3)【▲5.1】 時間と道のりの関係を表すグラフについて、グラフの傾きが速さを表すことを理解している。 A¹²(1)【▲4.6】 証明を振り返り、新たな性質を見いだすことができる。 B⁴(1)【▲3.9】 ※ 連続する3つの整数の和が3の倍数である理由を、構想を立てて説明することができる。 B²(2)【+3.3】

3 課題を示す特徴的な問題

【小学校6年A問題1(2)】

0.01を単位として、数を相対的に見ることができるかどうかをみる問題

- (2) $5.21 + 0.7$ を、0.01をもとにした式に表します。
 5.21 と 0.7 は、それぞれ0.01を何個集めた数になりますか。
 下の㉗、㉘に入る数を書きましょう。



【本市正答率】71.4% [全国比▲2.9%]

0.7は0.01が7個集まった数と捉えている児童が、13.4%もあり、全国より1.1高かった。十進位取記数法の原理や数の相対的な大きさについての理解に課題がある。

【小学校6年B問題1(2)】

「作図の意味を理解すること」の定着状況をみるための問題

1

平行四辺形には、次の特ちょうがあります。

平行四辺形の特ちょう

平行四辺形は、

- ㉗ 向かい合った2組の辺がそれぞれ平行である。
- ㉘ 向かい合った2組の角の大きさがそれぞれ等しい。
- ㉙ 向かい合った2組の辺の長さがそれぞれ等しい。

(2) 次の平行四辺形ABCDをかきます。

下の図のように、最初に、角Bが60°になるように辺ABと辺BCをかきました。そして、三角定規を使って点Aを通る直線と点Cを通る直線をかきました。

上の三角定規を使ったかき方は、左の平行四辺形の特ちょうの中の、どの特ちょうをもとにしていますか。
 左の平行四辺形の特ちょうの㉗、㉘、㉙の中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

【本市正答率】50.0% [全国比▲4.6%]

作図方法に関連しない平行四辺形にある特徴（向かい合う角の大きさや辺の長さ）を選択している児童が47.0%もあり、図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目した特徴の理解に課題がある。

【中学校3年A問題7】(3)

作図方法に着目し、平行四辺形は対角線がそれぞれの中点で交わる四角形であることを捉えているかどうかみる問題

7 次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(3) 下の図のように、点Oで交わる2つの直線 l 、 m があります。

下の①、②、③の手順で点A、点B、点C、点Dをとり、平行四辺形ABCDをかきます。

① 点Oを中心として円をかき、直線 l との交点を点A、点Cとする。

② 点Oを中心として別の円をかき、直線 m との交点を、点B、点Dとする。

③ 点A、点B、点C、点Dを順に結ぶ。

【本市正答率】43.0% [全国比▲5.1%]

作図方法に関連しない平行四辺形にある特徴(向かい合う角の大きさや辺の位置関係)を選択している生徒が27.7%もあり、図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目した特徴の理解に課題がある。

【中学校3年A問題12】(1)

時間と道のりの関係を表すグラフにおけるその傾きの意味を捉えることができるかみる問題

12 美咲さんは、家から、図書館と公園に寄って、友だちの家に行きます。次の図は、美咲さんが家を出てからの時間と家からの道のりの関係を表したグラフです。

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 美咲さんの進む速さが最も速いのは、何分から何分までの間ですか。下のアからオまでの中から1つ選びなさい。

ア 0分から5分までの間
イ 5分から25分までの間
ウ 25分から35分までの間
エ 35分から50分までの間
オ 50分から55分までの間

【本市正答率】45.3% [全国比▲4.6%]

速さが2番目に速い時間帯を選択している生徒が40.3%もあり、グラフの傾きが速さに関係していることへの理解や傾き具合についてのグラフの正確な読み取り方に課題がある。

4 児童・生徒質問紙との関連

【児童・生徒質問紙の結果(%)】

- (63) 算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。
- (86) 調査問題(B問題)の解答時間は余るほど十分だったか。

	番号	本市	全国	全国比
算数	(63)	35.5	35.5	0.0
	(86)	36.1	34.8	+1.3
数学	(63)	13.8	14.7	▲0.9
	(86)	38.6	44.3	▲5.7

(本市児童・生徒の「当てはまる」割合)

(63)「生活の中での活用」について、小学校は全国比と同じだが、中学校では0.9ポイント低い。また、(86)「B問題の解答時間」については、中学校において、全国に比べ時間が足りないと感じている割合が高い。

問題の内容や解決方法を吟味する活動を通して、活用場面の想起や多様な解決方法の創造に取り組みさせる必要がある。

5 授業改善のポイント

(1) 算数・数学共通

- 問題解決的な学習を単元に位置付け、解決方法等を導き出させ、説明させる活動を重視し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。特に、数や式に関する指導では、数量の関係を図に表したり、誤った考えを提示したりする中で、原理・法則に基づいた理解が深まるようにする。
- 図形にある特徴や性質等については、作図や観察等の活動を重視するとともに、話し合い活動等において、根拠を持って説明できるようにする。

(2) 算数

数と計算の指導においては、計算処理の仕方だけでなく、図や半具体物の操作と関連付けながら、十進位取記数法の原理や10のまとまりに着目した数の相対的な大きさについての理解を深めるようにする。

(3) 数学

図形や関数の指導においては、図やグラフなどから分かることを読み取り、話し合った説明したりする活動に取り組みせ、論理的に考える機会を増やすようにする。

平成27年度 全国学力・学習状況調査（理科）

～調査の結果から見える本市理科教育の課題について～

1 理科の調査結果

小学校では全国の平均正答率を大きく上回り、中学校ではほぼ同じであった。

全国平均率との差について、平成24年度と比較すると、小学校の全国との差が0.8、中学校で0.6上回っている。

	小学校	中学校
本市正答率	65.6	53.7
全国正答率	60.8	53.0
全国比(H27)	+4.8	+0.7
全国比(H24)	+4.0	+0.1

2 本市理科の課題

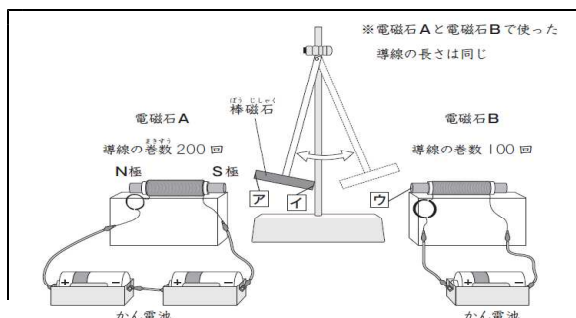
- 仮説を検証するために条件を整えて実験を計画したり、グラフや表、観察カードなどの観察・実験の結果を基に考察したりすることに課題がある。
- 科学的な言葉や概念を使用して、考えたり説明したりすることに課題がある。

	【全国との比較】
小学校	<ul style="list-style-type: none"> 振り子時計の軸に用いる適切な金属を選び、そのわけを書く。1(3)【▲0.3】 電磁石と磁石が退け合うようにするための極の組み合わせを選ぶ。1(4)【▲1.8】 観察した星座や雲の動きを選ぶ。4(4)【▲1.5】 <p>※ 器具の名称を書く。3(4)【+18.7】</p> <p>※ グラフから水温低下で析出する砂糖の量を選び、そのわけを書く。3(6)【+8.8】</p>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> グラフから、温度と化学変化の記述として適切なものを選ぶ。1(4)【▲1.8】 仮説検証のための対照実験を選ぶ。1(5)【▲2.7】 実験結果から、凸レンズの像の位置等について適切な説明を選ぶ。4(1)【▲1.6】 キウイフルーツがゼラチン等を分解する働き of 適切な説明を選ぶ。7(2)【▲1.2】 <p>※ 化学式(NaCl)を選ぶ。1(1)【+5.5】</p>

3 課題を示す特徴的な問題

【小学校6年**1** (4)】

電磁石と磁石が退け合うようにするための極の組み合わせを選ぶ問題



かつやさんは、上の図のように、電磁石Aの右側をS極にしました。電磁石と磁石が退け合う性質を使って動くふりこにするためには、棒磁石の**ア**と**イ**の極、電磁石Bの**ウ**の極をどのようにするとよいですか。下の**1**から**4**までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- | | | | |
|---|--------------|--------------|-------------|
| 1 | ア S極、 | イ S極、 | ウ S極 |
| 2 | ア S極、 | イ N極、 | ウ N極 |
| 3 | ア N極、 | イ S極、 | ウ N極 |
| 4 | ア N極、 | イ N極、 | ウ S極 |

【本市正答率】51.4% [全国比▲1.8%]

電磁石が磁石を引きつける性質と誤答した児童が34.9%いる(全国29.9%)。振り子が左右に等しく振れる仕組みに電磁石と磁石の同極が退け合う性質を適用することに課題がある。

【小学校6年**4** (4)】

観察した星座や雲の動きを選ぶ問題

- (3) ゆりえさんは、同じ場所で星座を観察し続けて、星座の位置が変わるようすを観察カードに記録しました。そして、観察カードを電子メールで、まことさんに送りました。



- (4) ゆりえさんが送った4枚の観察カードから、星座や星座をかくしていた雲は、ゆりえさんから見てどのように動いたと考えられますか。下の**1**から**4**までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 星座は左に動き、星座をかくしていた雲は右に動いた。
- 星座は左に動き、星座をかくしていた雲は星座よりも大きく左に動いた。
- 星座は右に動き、星座をかくしていた雲は左に動いた。
- 星座は右に動き、星座をかくしていた雲は星座よりも大きく右に動いた。

【本市正答率】57.8% [全国比▲1.5%]

2を選択し、星座と雲の動き共に間違えた児童が11%もあり、観察記録から必要な情報を読み取り考察することに課題がある。

【中学校3年1】(5)

仮説検証のための対照実験を選ぶ問題

花子：ベーキングパウダーの主な原材料(図4)を、すべて同じ質量ずつ混ぜ合わせて水に溶かしたら、二酸化炭素が出たね。

次郎：炭酸水素ナトリウムだけを水に溶かしても、二酸化炭素は出なかったよ。

太郎：クエン酸だけ、コーンスターチだけ、小麦粉だけをそれぞれ水に溶かしても、二酸化炭素は出なかったよ。

花子：やっぱり、二酸化炭素が発生するためには、炭酸水素ナトリウムが必要なのかな。

良子：「ベーキングパウダーの主な原材料(図4)をすべて同じ質量ずつ混ぜ合わせて水に溶かす実験」と、「Z」を同じ質量ずつ混ぜ合わせて水に溶かす実験」の結果を比較すればわかるはずだね。

ベーキングパウダーの主な原材料

- 炭酸水素ナトリウム
- クエン酸
- コーンスターチ
- 小麦粉

図4

(5) 良子さんは下線を確かめる実験で、上のZに当てはまる主な原材料の組み合わせを考えました。入れる物質を○、入れない物質を×で表したとき、最も適切なものを、下のAからEまでの中から1つ選びなさい。

	炭酸水素ナトリウム	クエン酸	コーンスターチ	小麦粉
A	○	○	○	×
I	○	○	×	○
U	○	×	○	○
E	×	○	○	○

【本市正答率】49.0%【全国比▲2.7%】

「A 小麦粉を入れない」実験を選択する生徒が18%いるなど条件制御ができていない。実験の企画をさせる際、対照実験を計画するなど、調べる条件のみを変えて実験を計画することに課題がある。

【中学校3年4】(1)

実験結果から、凸レンズの像の位置等について適切な説明を選ぶ問題

【方法】

- ① 焦点距離が10cmの凸レンズを用意する。
- ② 凸レンズと物体の距離を変え、はっきりした像ができるようにスクリーンを動かす。そのときの凸レンズとスクリーンの距離と、像の大きさを調べる(図1)。

図1

【結果】

凸レンズと物体の距離(cm)	15	20	25	30	35
凸レンズとスクリーンの距離(cm)	30	20	17	15	14
像の大きさ(cm)	10.0	5.0	3.5	2.5	2.0

【考察】

【結果】の表から、凸レンズと物体の距離が長くなると、凸レンズとスクリーンの距離がXなり、像の大きさがYなるというきまりがあると考えられる。

(1) 【考察】のX、Yに当てはまる正しいものを、それぞれ下のA、Iから1つ選びなさい。

X	A 長く	I 短く
Y	A 大きく	I 小さく

【本市正答率】42.1%【全国比▲1.6%】

凸レンズでできる像が小さくなる状況で「大きくなる」と誤答する生徒が30%もいる。結果から、凸レンズとスクリーンの距離、像の大きさの規則性を見出すことに課題がある。

4 児童・生徒質問紙との関連

【児童・生徒質問紙の結果(%)】

(69) 理科の勉強は好きですか。				
(71) 理科の授業の内容はよく分かりますか。				
(73) 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。				
	番号	本市	全国	全国比
小学校	(69)	83.4	83.5	▲0.1
	(71)	87.2	87.9	▲0.2
	(73)	70.7	69.3	+1.4
中学校	(69)	66.2	61.9	+4.3
	(71)	69.7	66.8	+2.9
	(73)	46.0	46.9	▲0.9

(本市児童・生徒の「当てはまる」割合)

8割以上の児童が理科が好きだが、生徒では6割台に減少している。また、9割弱の児童が理科が分かるとしているが、生徒は7割弱に減少している。7割の児童が普段の生活で活用できないか考えているが、生徒は半分にも満たない。

「理科が好き」、「内容が分かる」、「普段の生活の中で活用できないか考える」と答えている児童・生徒は、正答率が高い傾向にある。

5 授業改善のポイント

(1) 小中共通

- 振り子の学習において、振り子時計を扱うように、学習内容と関連の深い素材を基に教材開発を行い、事象提示の工夫を行うとともに、問題解決的なめあての設定を行い、学習意欲を高める。
- 予想や考察の段階で、自分の考えをノートに書いてからグループで話し合い、全体でまとめた後、最初の考えを見え消しや書き加え等で修正するなど、児童生徒一人一人が考えを持ち話し合うよう指導する。
- 表・グラフ、観察カード等のデータの読取では、複数の変数を一対ごとに比較させたり、変化を矢印や色等で表現し変化を捉えさせたりするなど多様な方法を用いて指導する。

(2) 小学校理科

振り子が左右に等しく振れる仕組みに、電磁石の退け合う性質を適用するように、実際の自然や日常生活に、学んだ事象の性質や規則性等を当てはめて説明する活動を取り入れる。

(3) 中学校理科

複数の条件の中から、調べる条件のみを変え、課題を検証するための対照実験を企画する学習場面を設定する。

平成27年度 全国学力・学習状況調査結果分析

【児童生徒に対する質問紙調査結果〈抜粋〉】

1 将来の夢や目標を持っていますか。

		平成27年度			平成26年度			平成25年度		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国
小学校	①当てはまる	75.4	74.3	70.5	75.9	75.4	70.7	77.3	77.8	72.2
	②どちらかといえば当てはまる	13.5	14.1	16.0	13.3	13.4	16.0	12.8	12.6	15.6
	③どちらかといえば当てはまらない	6.0	6.4	7.5	5.8	6.3	7.6	6.0	5.3	7.0
	④当てはまらない	5.0	5.1	5.9	4.8	4.8	5.5	3.9	4.2	5.1
中学校	①当てはまる	48.5	49.1	46.0	48.2	49.2	46.0	51.8	51.4	47.4
	②どちらかといえば当てはまる	23.5	24.0	25.7	24.3	23.9	25.4	23.9	23.7	26.1
	③どちらかといえば当てはまらない	17.7	16.7	17.5	17.3	16.8	17.7	16.0	16.3	17.0
	④当てはまらない	10.3	10.0	10.6	10.1	9.8	10.6	8.2	8.6	9.4

夢や目標を持っていると答えた児童の割合は、全国より高く、生徒の割合はほぼ同じである。

2 自分には、よいところがあると思いますか。

		平成27年度			平成26年度			平成25年度		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国
小学校	①当てはまる	37.0	34.1	36.3	37.0	34.4	35.0	38.4	37.0	34.5
	②どちらかといえば当てはまる	40.4	40.4	40.1	41.0	40.3	41.1	40.7	40.4	41.2
	③どちらかといえば当てはまらない	15.5	17.6	16.1	15.1	17.6	16.7	14.9	15.5	16.9
	④当てはまらない	7.0	7.8	7.5	6.7	7.6	7.0	6.0	7.0	7.3
中学校	①当てはまる	27.1	26.4	26.2	23.9	24.1	24.3	26.4	25.0	23.4
	②どちらかといえば当てはまる	40.7	40.5	41.9	43.5	42.9	42.8	41.8	42.5	43.0
	③どちらかといえば当てはまらない	22.4	23.1	22.3	24.1	23.6	23.3	23.2	23.4	23.8
	④当てはまらない	9.8	9.9	9.5	24.3	42.8	23.3	8.5	8.9	9.6

自分のよいところに気付いていると思う児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

3 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。

		平成27年度			平成26年度			平成25年度		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国
小学校	①当てはまる	23.0	23.2	25.6	37.0	34.4	35.0	38.4	37.0	34.5
	②どちらかといえば当てはまる	51.2	50.7	50.8	41.0	40.3	41.1	40.7	40.4	41.2
	③どちらかといえば当てはまらない	22.0	22.0	20.3	15.1	17.6	16.7	14.9	15.5	16.9
	④当てはまらない	3.8	4.1	3.2	6.7	7.6	7.0	6.0	7.0	7.3
中学校	①当てはまる	16.5	16.3	18.5	15.6	15.0	17.0	26.4	25.0	23.4
	②どちらかといえば当てはまる	49.1	50.5	50.3	49.0	49.7	51.0	41.8	42.5	43.0
	③どちらかといえば当てはまらない	29.9	29.1	27.0	31.2	30.9	27.8	23.2	23.4	23.8
	④当てはまらない	4.4	4.1	4.2	4.3	4.4	4.1	8.5	8.9	9.6

難しいことでも失敗を恐れずに挑戦しようとする児童生徒の割合は、全国に比べ低い。

4 あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めていると思いますか。

		平成27年度		
		本市	本県	全国
小学校	①そう思う	35.3	34.7	38.7
	②どちらかといえばそう思う	42.7	42.8	41.8
	③どちらかといえばそう思わない	17.1	17.5	15.1
	④そう思わない	4.9	4.9	4.3
中学校	①そう思う	30.2	31.6	35.9
	②どちらかといえばそう思う	43.2	43.8	42.4
	③どちらかといえばそう思わない	19.4	18.2	15.9
	④そう思わない	7.0	6.3	5.6

学級会などで自分たちが学級のきまりを決めているかの問いに「当てはまる」とした児童生徒の割合は、全国よりも低い。

5 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)。

		平成27年度			平成26年度			平成25年度		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国
小学校	①3時間以上	12.7	8.6	11.1	12.2	8.1	11.2	14.0	9.7	11.9
	②2時間以上3時間より少ない	16.8	16.6	14.6	18.2	16.7	14.6	19.6	19.0	15.7
	③1時間以上2時間より少ない	41.5	43.6	37.0	40.8	43.7	36.2	40.1	43.4	35.9
	④30分以上1時間より少ない	19.5	20.6	25.1	19.2	20.8	25.2	18.5	19.5	24.3
	⑤30分より少ない	6.2	7.0	9.1	6.5	7.2	9.5	4.7	5.4	9.0
	⑥全くしない	3.2	3.5	3.0	3.1	3.4	3.2	2.9	3.0	3.1
中学校	①3時間以上	14.9	11.2	10.4	15.4	11.2	10.4	18.1	12.5	10.6
	②2時間以上3時間より少ない	33.3	29.7	25.3	34.0	28.9	24.7	35.7	31.4	26.0
	③1時間以上2時間より少ない	30.9	36.2	33.3	29.0	36.1	32.8	26.7	33.4	32.2
	④30分以上1時間より少ない	13.5	15.0	17.0	13.0	15.2	17.3	12.1	14.8	16.6
	⑤30分より少ない	4.7	5.2	8.6	5.0	5.4	9.0	4.6	5.2	8.8
	⑥全くしない	2.7	2.7	5.3	3.5	3.1	5.7	2.6	2.7	5.8

学校の授業以外に、1日あたり1時間以上勉強している本市の児童生徒の割合は、全国、県に比べ高い。

6 普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)。

		平成27年度			平成26年度			平成25年度		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国
小学校	①4時間以上	2.0	1.8	3.1	1.5	1.5	2.7	1.5	1.5	2.7
	②3時間以上、4時間未満	1.8	1.9	2.6	1.5	1.7	2.3	1.5	1.7	2.3
	③2時間以上、3時間未満	3.5	3.5	4.1	2.5	2.8	3.7	2.5	2.8	3.7
	④1時間以上、2時間未満	6.4	6.1	7.1	5.3	5.7	6.4	5.3	5.7	6.4
	⑤30分以上、1時間未満	11.0	10.6	11.1	10.9	10.0	10.4	10.9	10.0	10.4
	⑥30分未満	31.7	29.2	30.0	31.0	27.0	28.2	31.0	27.0	28.2
	⑦携帯電話やスマートフォンを持っていない	43.4	46.8	42.0	47.2	51.1	46.3	47.2	51.1	46.3
中学校	①4時間以上	5.2	5.1	9.9	6.8	5.8	11.0	6.8	5.8	11.0
	②3時間以上、4時間未満	5.6	5.9	8.3	6.5	5.9	8.8	6.5	5.9	8.8
	③2時間以上、3時間未満	10.4	10.8	13.1	10.8	10.7	12.9	10.8	10.7	12.9
	④1時間以上、2時間未満	15.3	15.6	16.3	13.2	13.5	15.0	13.2	13.5	15.0
	⑤30分以上、1時間未満	14.3	14.3	14.2	12.9	12.6	13.0	12.9	12.6	13.0
	⑥30分未満	18.7	17.5	16.5	15.2	14.0	15.5	15.2	14.0	15.5
	⑦携帯電話やスマートフォンを持っていない	30.0	30.2	21.4	34.1	36.8	23.5	34.1	36.8	23.5

中学校で1時間以上使っている生徒の割合は、全国に比べ低く、携帯電話・スマートフォンを持たない児童生徒は全国よりも多いが、7割の生徒が持っている。

7 読書は好きですか。

		平成27年度			平成26年度			平成25年度		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国
小学校	①当てはまる	53.0	52.6	48.9	53.2	52.9	48.9	51.8	51.6	47.9
	②どちらかといえば当てはまる	23.3	23.3	23.9	24.0	24.5	24.1	24.5	24.6	24.3
	③どちらかといえば当てはまらない	13.8	14.1	15.7	13.9	13.8	15.9	13.8	14.1	16.2
	④当てはまらない	9.8	9.9	11.5	8.7	8.6	11.0	9.7	9.5	11.5
中学校	①当てはまる	46.8	47.8	44.9	47.1	47.8	45.9	47.3	47.7	46.4
	②どちらかといえば当てはまる	24.1	24.4	23.0	24.7	24.6	23.5	24.1	24.3	23.8
	③どちらかといえば当てはまらない	17.0	16.2	16.8	16.8	16.2	16.8	17.1	17.0	16.5
	④当てはまらない	11.9	11.6	15.0	11.0	11.2	13.6	11.2	10.8	12.9

読書を好きとする本市、本県の児童生徒の割合は、全国と比べ高い。

8 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。

		平成27年度			平成26年度			平成25年度		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国
小学校	①そう思う	25.0	26.8	23.4	24.3	27.2	24.4	27.0	29.2	25.9
	②どちらかといえばそう思う	32.5	33.7	31.8	34.5	34.1	33.2	34.0	34.0	33.4
	③どちらかといえばそう思わない	25.2	23.8	26.4	26.1	24.6	26.3	24.4	22.7	25.0
	④そう思わない	17.2	15.6	18.3	15.0	14.0	16.0	14.1	13.7	15.2
中学校	①そう思う	30.2	32.6	30.8	33.7	36.4	33.3	33.7	36.4	34.5
	②どちらかといえばそう思う	34.8	34.8	33.6	34.2	34.2	33.9	34.1	33.7	33.4
	③どちらかといえばそう思わない	23.1	21.7	23.3	21.8	20.0	22.1	21.5	19.9	20.9
	④そう思わない	11.8	10.8	12.2	10.0	9.3	10.6	10.0	9.4	10.6

自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることを難しいと思っている児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

【学校質問紙調査結果〈抜粋〉】

1 児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていますか。

	平成27年度			平成26年度			平成25年度			
	本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国	
小学校	①そのとおりだと思う	26.9	33.7	38.5	28.2	33.0	36.5	37.2	38.2	36.8
	②どちらかといえば、そう思う	69.2	56.5	51.7	69.2	57.7	53.2	55.1	53.9	53.6
	③どちらかといえば、そう思わない	3.8	9.2	9.2	1.3	8.4	9.7	7.7	7.7	8.9
	④そう思わない	0.0	0.6	0.6	1.3	1.0	0.6	0.0	0.2	0.7
中学校	①そのとおりだと思う	31.6	46.4	49.3	33.3	47.1	46.2	28.2	45.2	46.5
	②どちらかといえば、そう思う	60.5	44.1	44.0	59.0	47.1	45.9	69.2	51.7	46.4
	③どちらかといえば、そう思わない	7.9	9.5	6.1	7.7	5.3	7.4	2.6	3.0	6.5
	④そう思わない	0.0	0.0	0.4	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	0.5

授業中の私語が少なく落ち着いているかの問いに「そのとおりだと思う」とした小中学校の割合は、全国より低く、特に、中学校においては大きく下回っている。

2 該当の児童生徒に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を生徒に示す活動を計画的に取り入れられましたか。

	平成27年度			平成26年度			平成25年度			
	本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国	
小学校	①そのとおりだと思う	78.2	81.2	71.1	80.8	81.0	64.4	87.2	84.0	60.4
	②どちらかといえば、そう思う	21.8	17.8	27.0	17.9	17.8	32.5	11.5	14.9	36.1
	③どちらかといえば、そう思わない	0.0	0.2	1.7	0.0	0.6	2.9	0.0	0.8	3.4
	④そう思わない	0.0	0.4	0.1	1.3	0.6	0.1	0.0	0.2	0.0
中学校	①そのとおりだと思う	55.3	66.8	56.3	59.0	68.0	49.0	56.4	65.2	43.7
	②どちらかといえば、そう思う	44.7	33.2	39.4	35.9	31.1	45.0	43.6	33.9	48.9
	③どちらかといえば、そう思わない	0.0	0.0	4.1	5.1	0.9	5.9	0.0	0.9	7.1
	④そう思わない	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.2

授業冒頭でのめあてを提示しているとする学校の割合は、全国に比べ高い。

3 該当の児童生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れられましたか。

	平成27年度			平成26年度			平成25年度			
	本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国	
小学校	①そのとおりだと思う	60.3	58.0	47.6	64.1	59.2	42.3	70.5	66.2	41.1
	②どちらかといえば、そう思う	38.5	38.2	46.3	32.1	38.1	49.3	29.5	31.1	50.9
	③どちらかといえば、そう思わない	1.3	3.3	5.9	2.6	2.1	8.1	0.0	2.5	7.8
	④そう思わない	0.0	0.0	0.1	1.3	0.6	0.1	0.0	0.2	0.1
中学校	①そのとおりだと思う	31.6	34.5	34.2	33.3	33.8	28.6	35.9	41.7	26.4
	②どちらかといえば、そう思う	63.2	60.9	56.7	64.1	62.7	60.6	59.0	53.9	61.7
	③どちらかといえば、そう思わない	5.3	4.5	9.0	2.6	3.6	10.5	2.6	3.9	11.6
	④そう思わない	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.2

授業の最後に振り返り活動を計画的に取り入れている小中学校の割合は、全国、県に比べ高い。中学校では、取り入れているとする学校の割合が、平成26年度と比べて増えている。

4 前年度までに、児童生徒に対して、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか。

	平成27年度			平成26年度			平成25年度			
	本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国	
小学校	①よく行った	15.4	25.7	31.7	33.3	34.7	38.0	39.7	34.7	39.0
	②どちらかといえば、行った	67.9	57.8	55.8	56.4	54.6	53.0	56.4	57.5	52.3
	③あまり行っていない	16.7	15.5	12.2	9.0	9.8	8.8	3.8	7.7	8.4
	④全く行っていない	0.0	0.6	0.2	1.3	1.0	0.2	0.0	0.0	0.1
中学校	①よく行った	15.8	13.6	26.8	15.4	19.6	26.6	23.1	22.2	25.8
	②どちらかといえば、行った	50.0	61.4	55.9	53.8	59.6	56.1	64.1	60.4	55.6
	③あまり行っていない	34.2	24.5	16.8	30.8	20.4	16.9	12.8	17.4	18.3
	④全く行っていない	0.0	0.0	0.4	0.0	0.4	0.3	0.0	0.0	0.2

学級全員で取り組んだり挑戦したりするテーマをよく与えたとする本市の小・中学校の割合は、全国に比べ低く、小学校において「よく行った」とする学校の割合は、平成26年度に比べ大きく減っている。

5 前年度までに、生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか。

	平成27年度			平成26年度			平成25年度			
	本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国	
小学校	①よく行った	16.7	24.7	27.2	23.1	26.6	26.2	29.5	27.0	27.8
	②どちらかといえば、行った	74.4	64.3	64.7	69.2	64.0	64.4	62.8	62.5	63.1
	③あまり行っていない	9.0	10.4	7.9	6.4	8.8	9.2	7.7	10.2	9.0
	④全く行っていない	0.0	0.2	0.0	1.3	0.6	0.1	0.0	0.2	0.0
中学校	①よく行った	10.5	10.9	20.0	12.8	15.6	19.9	17.9	13.5	20.5
	②どちらかといえば、行った	60.5	72.3	67.8	64.1	64.0	66.6	66.7	70.4	65.4
	③あまり行っていない	28.9	16.8	12.0	23.1	20.4	13.3	15.4	15.7	13.9
	④全く行っていない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.4	0.1

考えを書かせる指導をよく行ったとする本市の小学校の割合は、全国に比べてほぼ同じであり、中学校は低い。

6 授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。

新

		平成27年度		
		本市	本県	全国
小学校	①よく行った	19.2	15.5	17.2
	②どちらかといえば、行った	61.5	60.8	55.8
	③あまり行っていない	19.2	22.9	26.5
	④全く行っていない	0.0	0.4	0.5
中学校	①よく行った	5.3	5.5	12.0
	②どちらかといえば、行った	42.1	48.6	51.3
	③あまり行っていない	52.6	45.0	35.6
	④全く行っていない	0.0	0.9	1.0

児童生徒自ら課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を「よく行った」とする学校の割合は、全国と比べ、小学校は高いが、中学校において「よく行った」とする学校の割合は、全国の半分である。

7 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか。

		平成27年度			平成26年度			平成25年度		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国
小学校	①そのとおりだと思う	20.5	26.9	37.0	25.6	25.3	34.4	24.4	22.6	31.9
	②どちらかといえば、そう思う	69.2	67.3	58.8	70.5	70.5	61.1	67.9	71.4	62.9
	③どちらかといえば、そう思わない	10.3	5.7	3.9	3.8	4.0	4.4	7.7	6.0	5.0
	④そう思わない	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中学校	①そのとおりだと思う	7.9	15.0	27.5	12.8	19.6	23.8	12.8	13.0	21.8
	②どちらかといえば、そう思う	81.6	73.2	64.8	66.7	67.1	67.0	66.7	74.8	67.6
	③どちらかといえば、そう思わない	10.5	11.8	7.6	20.5	13.3	9.1	20.5	12.2	10.5
	④そう思わない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

参加した研修の成果を積極的に反映させているという本市小中学校の割合は、全国に比べ低く、「その通りだと思う」とする学校は、全国を比べ、大きく下回っている。

8 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか。

		平成27年度			平成26年度			平成25年度		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国
小学校	①そのとおりだと思う	46.2	52.2	59.4	50.0	55.0	56.9	57.7	57.1	57.9
	②どちらかといえば、そう思う	51.3	46.1	38.9	48.7	43.9	41.3	42.3	42.3	40.0
	③どちらかといえば、そう思わない	2.6	1.8	1.6	1.3	1.1	1.8	0.0	0.4	1.9
	④そう思わない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中学校	①そのとおりだと思う	34.2	41.8	52.0	25.6	40.9	48.3	41.0	44.3	49.8
	②どちらかといえば、そう思う	60.5	55.9	45.6	66.7	56.4	48.9	53.8	54.3	47.3
	③どちらかといえば、そう思わない	5.3	2.3	2.4	7.7	2.7	2.7	5.1	1.3	2.7
	④そう思わない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

学校の学力傾向や課題を十分に共有できているとする本市小中学校の割合は、全国に比べ低く、小学校において年々減少している。

9 教科の指導内容や指導方法について近隣の学校(小学校は中学校、中学校は小学校)と連携を行っていますか(教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など)。

新

		平成27年度			平成26年度			平成25年度		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国	本市	本県	全国
小学校	①そのとおりだと思う	10.3	20.8	21.5	5.1	21.6	18.4	7.7	21.8	22.7
	②どちらかといえば、そう思う	53.8	46.9	45.2	61.5	45.6	44.0	64.1	53.5	46.5
	③どちらかといえば、そう思わない	33.3	29.6	28.1	32.1	29.5	31.2	28.2	24.1	26.8
	④そう思わない	2.6	2.7	5.1	1.3	3.3	6.4	0.0	0.6	3.9
中学校	①そのとおりだと思う	15.8	33.6	31.3	17.9	36.0	28.7	17.9	34.8	26.9
	②どちらかといえば、そう思う	47.4	47.3	44.2	48.7	41.8	43.4	56.4	45.7	42.6
	③どちらかといえば、そう思わない	36.8	18.2	20.7	33.3	20.4	23.3	25.6	19.1	25.5
	④そう思わない	0.0	0.9	3.6	0.0	1.3	4.5	0.0	0.4	5.0

小中連携を行っているかについて「そのとおりだと思う」とする本市小中学校の割合は、全国の半分である。

【考察及び改善策】

- 本市において、将来の夢や希望をもっていると解答した児童の割合は全国に比べ高いが、生徒の割合は低く、難しいことに挑戦したり、自分たちで話し合っで学級のきまりなどを決めたりする児童生徒の割合が低い。また、学級全員で取り組む課題やテーマを与えたとする学校の割合も低い。児童・生徒会活動や学級活動等で、諸問題を見付け、解決策を話し合っで実行したり、学級・学校のきまりをみんなで考えて決めたりするなど、主体的に活動する場を仕組む。
- 授業以外での勉強時間は全国に比べ多いが、平均正答率は全国とほぼ同じである。家庭学習の手引きを基に、宅習の内容や方法を指導し、児童生徒が調べたり文章を書いたりする宿題も与えていく。
- 授業において、授業のめあてやまとめはしっかり示されているが、「児童生徒は私語が少なく、落ち着いているか」の問いに対して「そのとおりだと思う」と回答した小中学校の割合は全国に比べ低い。また、児童生徒自ら課題を見つけ、解決に向けて話し合い、まとめ、表現するといった学習活動を取り入れているとする中学校の割合も全国に比べ低い。今後は、話をしっかり聞くなどの学業指導を家庭の協力を得て行うとともに、めあてを問題解決的な表現にして児童生徒の学習意欲を高めるよう改善し、特に中学校においては、生徒自ら課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動を多く取り入れる。
- 校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていない状況が見られる。校内研修で研究会の資料を活用し、資料を回覧して全職員で共有する。また、県の「かごしま学力向上支援Webシステム」などの学力向上に向けた情報も積極的に活用する。
- 小・中連携部会等を通して、出前授業の実施や共通実践事項の設定など連携を深め、両校種の教育内容や方法等を共有する。